

太平児童センター 事業評価表

※事業区分「1」…仕様書事業、事業区分「2」…自主事業

項目	事業 区分	実施日・事業名	実施日	指定回数	年度評価		実施 回数 H28	平成28年度の参加人数					実施 回数 H29	平成29年度の参加人数					事業の内容、利用者の満足度・評価 等
					H28 年度	H29 年度		乳幼児	小学生	中高生	大人	合計		乳幼児	小学生	中高生	大人	合計	
乳幼児と保護者を 対象とした事業	1	① 乳幼児クラブ 0歳 ・エンゼルクラブ ・ベビークラブ (さくら・たんぽぽ)	前・後期 6回 (エンゼルは 後期のみ)	10	13	14	28	460	0	0	385	845	28	470	0	0	415	885	・0歳児のクラブでは、母親同士の交流の充実を図る為、毎回雑談の機会を設けた。その成果もあり、母親同士の横のつながりが充実し、子育ての情報交流が盛んに行われるようになった。友達同士での入会が多く、一人で入会した親子が入りにくい状況が解消し、全員が安心してクラブを楽しめた。
		② 乳幼児クラブ 1歳 ・ぴよぴよクラブ (あか・あお)	前・後期 8回	10			31	472	0	0	411	883	32	498	0	0	449	947	・親子のふれあいを重点に実施した。ゲーム性を取り入れたことでより楽しいものとなった。主活動に合わせた大道具、小道具は母親の満足度につながった。毎回行った「アンパンマン体操」は最も子どもたちが生き生きとしていた。子どもの好きなことを積極的に盛り込んだ。
		③ 乳幼児クラブ 2歳 ・ちびっこクラブ ・キンダークラブ	前・後期 8回	10			32	539	0	0	383	922	32	707	0	0	465	1172	・毎回、一人ひとりが主役になる時間を必ず設定して行った。自分を前面に出すことが苦手な子どももその時間だけは活動の中心となった。集団の一人ひとりを大切にすることで母親の満足度も高いものとなった。また、就園を控える中、毎回の繰り返しの成果で「待つ」「返事をする」「並ぶ」「順番を守る」ことができるようになった。母親のアンケートでも「社会性が育った」との旨の回答が多かった。後期のクラブ員が増えた為人数が増加した。
	小 計						91	1471	0	0	1179	2650	92	1675	0	0	1329	3004	
	2	④ 乳幼児 自主事業 ・幼児あそぼう会(毎月) ・絵本読み聞かせ(毎月) ・幼児トランポリン(毎月) ・幼児水あそび(夏季) ・親育ち4・3・6・3協賛事業 「赤ちゃんへの プレゼントづくり」 ・親育ち4・3・6・3協賛事業 「パパっこクラブ」	月3回 程度		13	13	46	591	0	0	492	1083	38	543	0	0	437	980	・「絵本の読み聞かせ」では、保健センターから「近年親子あそびの時間が減っている。」という話を受け、毎回親子あそびを十分に行ってから読み聞かせをするようにした。親子あそびは家庭でもいつでもできるような簡単に覚えやすいものを中心に行った。児童センターでの活動が家庭につながった。 ・親育ち4363の協賛事業では「パパっ子」クラブと名前を付けお父さんの参加を促した。
小 計						46	591	0	0	492	1083	38	543	0	0	437	980		

項目	事業 区分	実施日・事業名	実施日	指定回数	年度評価		実施 回数 H28	平成28年度の参加人数					実施 回数 H29	平成29年度の参加人数					事業の内容、利用者の満足度・評価 等
					H28 年度	H29 年度													
児童を 対象とし た事業	1	一輪車クラブ	各月2回 程度	6	13	13	21	0	478	0	0	478	38	0	428	0	0	428	・一輪車クラブは、29年度より、A・Bグループに分け実施した為実施回数が増えた。Aグループは「乗り始めの小学生対象」、Bグループは「演技披露に向けた上級者対象」である。これにより、個々のレベルに合わせ、一人ひとりへの指導が充実した。Aグループ所属の乗り始めの小学生も安心して取り組み、半数以上の小学生が乗れるようになった。 ・子どもスタッフクラブは、学校・学年の枠を超えてまとまりのある活動ができた。一人ひとりのアイデアを尊重し、企画から実施まで成功させることができた。特に、デイサービス訪問が中止になった時、「児童センターに遊びに来ている子たちに向けてやろう!」と努力を無駄にしないように自分たちで考えることができた。 ・卓球クラブは、挨拶、返事、お礼、話の聞き方を重視した。外部講師への接し方もよくなり、見ていてとても気持ちいいメリハリのある集団をつくることができた。技術向上の面でも、お互いに切磋琢磨し合い、目を見張るほどの成長を見せた小学生もいる。一年の集大成として、太平老人センターとの卓球大会を行った。
		子どもスタッフクラブ		6			22	0	292	0	0	292	19	0	228	0	0	228	
		卓球クラブ		6			18	0	163	0	3	166	19	0	170	0	0	170	
		② ボランティア活動	月1回 程度				10	2	40	0	2	44	12	0	44	0	0	44	
	小 計						71	2	973	0	5	980	88	0	870	0	0	870	
	2	③ 児童 自主事業 ・一輪車交流会（本土児童館と交流） ・子どもスタッフ交流会(7館合同) ・トランポリン(毎月) ・季節行事（デイキャンプ、クリスマス会等） ・チャレンジ番付(毎月) ・福祉体験 ・ホッと!ふれあいクッキング	月3回 程度		13	13	40	108	690	8	202	1008	37	35	517	15	65	632	・28年度までは、季節行事に参加する小学生は女兒ばかりだった。29年度はこの現状を打開するために男児への声掛けを積極的に行った。その成果もあり、男児の参加が多くなった。2月に実施したバレンタインチョコ作りにも男児の参加があり、誰でも参加しやすい事業になってきた。
	小 計						40	108	690	8	202	1008	37	35	517	15	65	632	

項目	事業 区分	実施日・事業名	実施日	指定回数	年度評価		実施 回数 H28	平成28年度の参加人数					実施 回数 H29	平成29年度の参加人数					事業の内容、利用者の満足度・評価 等
					H28 年度	H29 年度													
地域・多世代間 交流事業	1	① 児童館まつり ・ 太平児童センター＆ 中高生スペースまつり	年1回				2	77	87	14	102	280	1	33	102	18	88	241	・おまつりを1回実施した。池田地域子どもたちの多くは平和中学校に進学する。平和中学校の吹奏楽部の演奏を聴いて、「平和中学校の吹奏楽部に入りたい!」と思った小学生もいたようだ。今後も継続して平和中学校に依頼をしていくため、児童センターで育った子どもたちが、後に児童センターに貢献していくことが期待できる。
		② 移動児童館 ・ 池田町屋公民館まつり (夏・秋)	年4回		13	12	5	264	425	0	301	990	4	151	347	4	167	669	・「公民館まつり」に参加した。あそびのコーナーが少ないおまつりのため、児童センターの行うあそびのコーナーが子どもたちの居場所になっている。毎年工夫を凝らし展開しているため、地域の人たちの期待も非常に大きい。児童センターに求められていることを自覚し、実施している。
	小 計						7	341	512	14	403	1270	5	184	449	22	255	910	
	2	③ 地域・多世代 自主事業 ・ 太平公園であそぼう ・ 星の観察をしよう! ・ ふれあい福祉まつり ・ プレゼントづくり ・ お楽しみ工作 ・ 福祉センター合同事業 (豆まき会、お正月あそび等) ・ ふれあい広場	月2～4回 程度		13	12	49	425	515	21	840	1801	33	266	418	27	514	1225	・28年度実施していた「お楽しみ工作」を見直し、「クリスマス」や「母の日のプレゼントづくり」などの季節の製作のみの実施とした。来館者が自由に遊べる時間が充実した。また、複合館の特徴を生かしたデイサービスとの合同事業を年間を通して行った。施設と施設の交流だけでなく、一人ひとりが個々に関われる時間を必ず設けた。
	小 計						49	425	515	21	840	1801	33	266	418	27	514	1225	

項目	事業区分	実施日・事業名	実施日	指定回数	年度評価		実施回数 H28	平成28年度の参加人数					実施回数 H29	平成29年度の参加人数					事業の内容、利用者の満足度・評価 等
					H28 年度	H29 年度													
中高生事業	1	① 中高生ボランティア	年5回 程度	3			7	0	0	16	0	16	10	0	0	26	0	26	・乳幼児対象の事業の準備のボランティアを意図的に実施した。中高生は一つの行事を作り上げる裏側を感じ取ることができたようだ。
	1	② 中高生スペース ・池田町屋公民館まつり準備、運営 ・太平児童センター&中高生スペースまつり準備、運営 ・巨大段ボール迷路準備、運営	年6回		13	13	7	0	0	35	0	35	7	0	0	26	0	26	・中高生がすべて企画、準備した「ダンボール迷路」を行った。参加する子どもたちが楽しめるように迷路の中に小窓を作ったり、真っ暗なスペースを作ったり創造力豊かな迷路を作り上げた。自由な発想を尊重し、事業を実施することができた。来場者にも大好評だった。
	小 計						14	0	0	51	0	51	17	0	0	52	0	52	
	2	③ 中高生 自主事業 ・小学生とあそぼう ・乳幼児とのふれあい体験 ・卓球大会	月1～2回 程度		14	12	27	0	0	88	0	88	13	0	0	36	0	36	・「小学生とあそぼう」は、28年度までは同学年と関係を築くことが苦手な中高生を対象に遊戯室、図書室で小学生との関わりを実施していた。29年度は、中高生が遊戯室を求めて来館しても、職員が間に入り、中高生スペースの利用を促した。職員がそばにいて安心して同学年と関わるようになった。その成果もあり、小学生と遊ぶ中高生が減り、参加人数、実施回数は減少したが、同学年との関係が形成されたため、良い傾向だと感じる。
	小 計						27	0	0	88	0	88	13	0	0	36	0	36	

項目	事業 区分	実施日・事業名	実施日	指定回数	年度評価		実施 回数 H28	平成28年度の参加人数					実施 回数 H29	平成29年度の参加人数					事業の内容、利用者の満足度・評価 等
					H28 年度	H29 年度													
子育てネットワークづくりの推進	1	① 相談日	月1回	12	13	13	12	14	0	0	12	26	12	0	0	0	0	0	・相談日を毎月一回設定しているが、相談日に来る相談はほとんどない。相談日以外の相談は、29件あった。日常の来館者との関わりの中で、母親の思いや気持ちを引き出し、気持ちよく帰ってもらうように対応している。
		② 講習・講演・他連携 ・赤い羽根共同募金配分金事業 「くす田博士のサイエンスショー」 「体操のお兄さんとあそぼう！」 ・歳末助け合い募金配分金事業 「たじみ児童館将棋まつり」 ・池田保育園共催事業 (芋の苗植え、芋堀り等)	年2～4回 程度	2			4	166	17	0	165	348	7	84	37	6	89	216	・池田保育園と共催での事業を増やし、年4回実施した。就園を決める時期に地域の園を知ってもらえるように前期を中心に行った。特に4月に実施した時には「こんな園があるんだ」と反応もよかった。事業がきっかけとなり、継続して一時預かりなどで利用している親子もいる。
		② 母親クラブ ・ママクラブ (母親クラブ立上げ支援事業)	月1回 程度				10	121	0	0	89	210	11	120	0	0	103	223	・母親クラブ設立の前段階の「ママクラブ」を実施した。毎回参加する親子が増えてきてまとまった参加人数となってきた。しかし、リーダーとなりうる存在がいない為、積極的に多くの親子を巻き込み、今後の課題としてく。
	小 計						26	301	17	0	266	584	30	204	37	6	192	439	
	2	③ 子育て 自主事業 ・なないろひろば	月1回		13	13	9	57	0	0	48	105	11	80	0	0	62	142	・「なないろひろば」では、毎回の繰り返しの中で子どもたちが流れを理解し、活動できるまでになった。成長する子どもの姿を見て母親の子どもの見方が肯定的になった。回を重ねるごとに積極的に母親が子どもと笑顔で触れ合うことが多くなった。また、なないろひろばを窓口として発達支援センター、わんぱく教室につながったケースもある。多治見市の子育てネットワークの重要な役割を果たしている。
	小 計						9	57	0	0	48	105	11	80	0	0	62	142	